

〈シンポジウム〉 香粧品原料をめぐる問題

## 界面活性剤

松 本 光 雄\*

Surface Active Agent

Mitsuo MATSUMOTO\*

界面活性剤は香粧品にもっとも大きな影響を与える原料であるが、香粧品自身が多様性を特徴とし、評価の困難なものであるだけ、原料としての活性剤の優劣、適否を論議することが難かしい、また活性剤自体が非常に広範囲にわたる物質群の総称であり、これを総論的に香粧品原料として論議することは、有意なことではない。活性剤は一般的に純化合物でなく、多成分が集積した反応成績体で、分離精製技術の適合しにくいものである。そのため性能は商品名に対応するものとして限定されるが、同一商品名内でも性能の変動は避けられない。

これまで香粧品原料としての活性剤の評価は、出来上った香粧品製品の評価にしたがって、本質的な追究はあまりなされていなかった。しかし安全性の論議がなされるようになって以来、香粧品原料としての適性を評価し、総合的に活性剤を検討する素地が出来上って来たといえる。